

令和4年度

少年の主張

島根県大会報告書

JUVENILE CLAIMS SHIMANE CONVENTION

第51回



島根県少年 弁論大会

(動画審査会)

中学生の今の言葉で
伝えたいことが
あります

日時

令和4年

9月28日(水) 10:25~14:40

場所

大社文化プレイス
うらら館

〒699-0711 出雲市大社町杵築南1338-9
(電話：0853-53-6500)

主催／青少年育成島根県民会議、島根県中学校長会（主管：出雲市中学校長会）、

独立行政法人 国立青少年教育振興機構

共催／出雲市教育委員会

後援／島根県、島根県教育委員会、島根県警察本部、出雲市、出雲市青少年育成市民会議、
島根県PTA連合会、出雲市PTA連合会



青少年育成島根県民会議
キャラクター
ハピネス

はじめに

令和4年度 少年の主張島根県大会の開催にあたり、一言ご挨拶いたします。

はじめに、県内各地から選ばれた、発表者の皆さん、おめでとうございます。お忙しい中、今大会に駆けつけていただいた県中学校校長会の皆様、審査委員の皆様、ありがとうございます。

今大会の開催は、新型コロナ対策として、密を避けるために、ビデオ録画による動画審査となりました。大社文化プレイスうらら館を会場として提供くださった出雲市及び出雲市青少年育成市民会議の皆様方のご協力とご厚意に深く感謝いたします。

また、島根県ケーブルテレビ協議会のご協力により県内のケーブルテレビ各局で放送していただきます。中学生はもとより、県民の多くの皆さんに少年の主張をお届けできることでしょう。

今大会は県内中学生にとって唯一の、最大の意見発表の場です。社会や世界の向けての意見、未来への希望や提案など、家庭、学校生活、社会の地域活動、友達とのかかわりなど、そして、テレビや新聞などで報じられている社会の様々な出来事に関する意見や、感想、提言など、幅広い意見表明の場です。

さて、今年6月に子ども基本法が制定し、来年4月に公布されます。子どもをめぐる問題を抜本的に解決し、養育、教育、保健、医療、福祉等の子どもの権利施策を幅広く、整合性をもって実施するには、子どもの権利に関する国の基本方針、理念及び子どもの権利保障のための原理原則が定められる必要があります。そのためには、憲法及び国際法上認められる子どもの権利を、包括的に保障する「基本法」という法形式が必要なのです。

ユニセフは、子どもの権利を、生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利の4つにまとめています。4番目の参加する権利は、意見表明の権利ともいわれます。中学生のみなさんは、自分に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利をもっています。その意見は、発達に応じて、十分考慮されなければなりません。

今日本では、少子高齢化、国際化、情報化が急速に進み、環境が目まぐるしく変化しています。次代を担うみなさんには、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められています。そのため、広い視野と柔軟な発想や創造性などと共に、物事を論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝え、理解してもらう力などを身に付けることが大切です。

少年の主張島根県大会は、これらの契機となることを願い実施するものです。島根県全域から選出された16名の皆さん、さあ、力をいっぱい、自分の思いを主張してください。

令和4年12月

青少年育成島根県民会議
会 長 高橋 憲二

目 次

はじめに

大会風景..... 2

審査結果表..... 3

発表作品..... 4

開催要項.....20

審査委員／令和3年度（昨年度）受賞者.....22

地区大会概要一覧.....23

全国大会出場者・審査結果.....24

全国大会「内閣総理大臣賞」受賞作品.....25

あとがき

大会風景



開会式



青少年育成島根県民会議会長 挨拶



動画視聴風景



集合写真



審査会風景



審査委員長 審査結果発表 及び講評

令和4年度（第51回）「少年の主張島根県大会」審査結果表

賞 名	演 題 (テーマ)	地区	学 校 名	学年	ふりがな 氏 名
島 根 県 知 事 賞	二度の出会い (多様性(ダイバーシティ))	出雲	出雲北陵中学校	3	たかはし 高橋ゆかり
島根県教育委員会 教 育 長 賞	全力で生きる (生命)	浜田	浜田市立第一中学校	3	しまうち あいら 島内 愛来
島根県警察本部長賞	言葉に宿るもの (将来の夢)	鹿足	吉賀町立吉賀中学校	3	かとう じゅいち 加藤 樹一
青 少 年 育 成 島根県民会議会長賞	私の幸福論 (自己の生き方)	安来	安来市立第一中学校	3	せん だ こ 仙田 瑚々
審 査 委 員 特 別 賞	自分で自分を助けよう (生命)	隠岐	知夫村立知夫中学校	3	よろず しやうえい 萬 翔瑛
//	これまでの夢 これからの私 (生き方)	益田	益田市立横田中学校	3	いしかわ みさき 石川 美咲
優 秀 賞	嫌われる覚悟 (自己の成長)	松江	松江市立第三中学校	3	うえの たいが 上野 泰雅
//	祖父のOKサイン (精一杯生きる決意)	出雲	出雲市立向陽中学校	3	たく わ あい 多久和亜依
//	命の意味 (生命、将来の夢)	雲南	雲南市立木次中学校	2	うつのみや とわ 宇都宮十和
//	私の成長は「みんなで」から (地域社会)	飯石	飯南町立頓原中学校	2	いたがき ふうか 板垣 風花
//	AIと共に平和な世界へ (平和)	松江	島根大学教育学部附属 義務教育学校	7	かたおか むつみ 片岡 睦深
//	ぼくのスーパーヒーロー (家族・思いやり)	江津	江津市立桜江中学校	1	ますもと いつき 升本 樹希
//	五百円玉 (社会とのつながり)	出雲	出雲市立平田中学校	2	たかはし るな 高橋 瑠菜
//	コロナを通して見えた温かさ (地域社会)	仁多	奥出雲町立仁多中学校	3	えすみ さつき 江角 颯姫
//	「死」を見つめて (生命)	邑智	川本町立川本中学校	2	もりかわ あやね 森川 愛子
//	たった一秒 されど一秒 (言葉)	大田	大田市立第二中学校	3	わたなべ なか 渡邊菜々花

※ 審査委員特別賞、優秀賞については、発表順に記載しています。



島根県知事賞

二度の出会い

出雲北陵中学校
3年 高橋 ゆかり

え、。

そう心の中でつぶやいてすぐに、声に出なくて良かった、と思いました。

それは、小学4年生の終わりのことでした。終了式を終えて、いつもより早く帰宅した私は、近所のコンビニへ昼食を買いに出かけました。当時は1人で買い物をすることに慣れていなくて、緊張したまま商品を選びレジに並びました。レジで会計をしてくださったその店員さんは、柔和な表情をしたとても優しい方でした。もしも親と来ていたらこの優しさに気づけなかったかもしれないと思うと、勇気を出して1人で来て良かったと感じました。その時でした。おつりの準備をしてくださっているその店員さんの片手をふと見ると指が全て無かったのです。

私の心は一転して、再び緊張に駆られました。はやる鼓動のまま家に帰り、先ほどの出来事について考えました。今まで、「人を見たくて判断してはいけない」と思ってきましたが、いざその場面になると私は「恐怖」を感じてしまいました。その日からしばらく、私はこの事ばかり考え続けていました。

それから月日は流れて、中学生になったある日のことです。学校から自転車で帰宅する途中に声をかけてくださった人がいました。狭い道を工事車両がふさいでいて、別の道へ迂回しようとしていた私に、「通るだわ」と言ってくださった工事現場のおじさん。私が自転車から降りると、重たいリュックを乗せたままの自転車を持ち上げて、工事車両の向こう側まで運んでくださいました。これまで何度も工事現場の近くを通ったことはありましたが、ここまで親切にされたのは初めてで驚くと共に、優しい方だなと温かい気持ちになりました。そしてすぐに、

そのおじさんの片手には指が無いことに気がついたのです。とっさに、しまいこんでいた小学4年生の頃の記憶が蘇ってきました。しかし、恐怖などは全く感じず、私の心は温かいままでした。

恐怖心を感じなくなっていたのは、おじさんとの最初の出会ってから、人の内面に目を向けることを意識するようになっていたからだと思います。

おじさんとの2度の出会いが私にくれたもの、それは「人を見たくて判断してはいけない」という確信です。

これは、誰もが当たり前のよう知っていて、分かっていることかもしれませんが。多様性を表すダイバーシティという言葉が最近よく耳にします。見た目や考え方にとらわれず多様性を受け入れることが本来の社会のあるべき姿だという考えが当たり前になってきています。けれど、自分と違う見た目の方に突然出会った時、驚いてその見た目にばかり気が向いてしまう方も少なくはないと思います。実際に、私はそうでした。人と違う見た目を隠すことなく、当たり前の優しさで私に接してくださったおじさんは、当たり前のことを当たり前にする難しさと、その大切さを教えてくださいました。

私は、自分を人間的に成長させてくれたこの出会いにとっても感謝しています。また、月日が経った2度の出会いの両方で、親切に対応してくださったそのおじさんを尊敬しています。

これから先、私は、人を見たくて判断して心を閉ざしたり、差別したりするのではなく、当たり前のことを当たり前にできる人を目指します。



島根県教育委員会教育長賞

全力で生きる

浜田市立第一中学校
3年 島内 愛来

「テンペスト」それは、嵐。

今、私はベートーヴェンのピアノソナタ第17番、通称「テンペスト」に挑戦しています。

学校に行き部活をして帰る平凡な毎日。来週はテストだ、明日は持久走。大変なことばかりでつまらない。

そんな私の平凡な毎日に嵐が吹き荒れたのは去年の秋でした。予期もしなかった病気。脳髄液漏出症。毎日続く頭痛とめまい、吐き気で起き上がることも難しく学校に行けなくなりました。今日こそは、と無理やり登校しても体が持たず2、3時間で早退ばかり。いやだと思っていたテストすら受けることができなくなりました。10年以上休まず取り組んできたピアノ。小学校1年生から毎年連続で全国大会に出場していたコンクールも初めて予選を辞退せざるを得ませんでした。大好きなピアノの前に座ることもできず、家で横になるばかりの生活に、体力だけでなく気力も落ちていきました。やりたいこと、やらなければならないことがあっても気持ちが先走るだけで体がついていかず、大きな無力感に襲われるのです。どんどん遅れていくことに焦り、悔しさ、孤独といった感情が入り混じり、ひとり暗闇の中にいるようでした。

家族と離れ県外での入院。それはとても辛いものでした。背骨から針を刺される痛み。造影剤を入れることによる鈍器で殴られたような頭痛。首に自己血を入れる経験したことの無い痛み。意識がある中での治療のため、痛みを耐えつつ、これさえ乗り越えればよくなるからとすがるような気持ちでした。それなのに、術後、間も置かず病気は再発し、医師から元の体に戻るかわからないと説明を受けました。このままずっと治らず寝たきりになってしまうのではないだろうか、今まで頑張ってきたことを全て諦めることになってしまうのではないだろうか、人生をリセットしたいと思うほど落ち込みました。

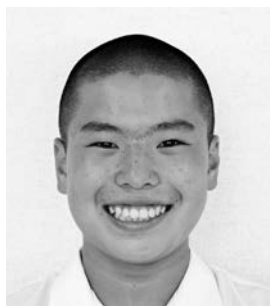
その一方で治ってまた頑張りたいという完治

を期待する気持ちはなくなりませんでした。またピアノを弾きたいという私の意地だったかもしれません。友達や家族の支えもあり、2度目の手術も前向きに頑張ることができました。おかげで今はこの通り元気です。

元気になって思うのは、学校に通い友達や家族と平凡な日常を送ることはどれだけ幸せなことかということです。その上私は、健康でいるからこそ、その幸せを感じられること、毎日を「つまらない」と思うか「ありがたい」と思うかは自分の心1つで決まることに気付きました。すると苦しくて辛いことさえ全力で楽しむことができるのです。そして今私は、何でも全力で取り組めることに喜びを感じています。

コンクールに向け、ピアノの練習も再開できました。「テンペスト」がその課題曲です。ピアノの先生に「一生のもち曲として弾いてほしい。この曲について調べてみて。」と授けていただきました。ベートーヴェンは音楽家として致命的な耳の病気を患い、激しい絶望と孤独から遺書まで書いたと言われています。この曲を弾くと、気持ちの揺れ動きや自分の中の何かが崩れ落ちていく様子が音から伝わってきます。嵐の中に放り込まれ、翻弄される、そんな様子はまさに当時の自分の心情と重なります。まだ今は、なかなか目標とする演奏はできていません。練習はとても苦しいです。けれど目標に向かって全力で取り組んでいることは寝たきりだったときの苦しさとは違います。できないことへ挑戦する苦しさや疲労感はやがて元の自分に帰ってきた喜びを感じさせてくれます。この苦しみは元気であるからこそ味わえるのです。辛さは自分自身が努力した証です。

私たちはいつどうなるか誰にもわかりません。健康でいることも、戦争のない世界に住み続けられることも、災害が来ないことも保証はできません。だからこそ1日1日が大切です。闘病中お世話になった先生や友達、家族に感謝して私はこれからも全力で生きていきます。



島根県警察本部長賞

言葉に宿るもの

吉賀町立吉賀中学校

3年 加藤 樹一

「おいお前！！何しよるんか！バントもできないのんだったら野球なんか辞めてしまえ！」

相手チームの監督が言った言葉がグラウンドに響きました。バント処理のため、猛ダッシュをしていた私は、涙目になり顔が強張っているバッターと目が合いました。「いいか、次は絶対に失敗するなよ！」相手ベンチからのこの声を聞いたとき、「あんな顔していて上手くできるのだろうか？もし失敗したら今度はなんて言われるんだろう。かわいそうだな。」と思っていました。「ファースト！」誰かが言ったその声でハッと我に返りました。相手選手がバントした球が自分のところへ転がっていたのです。慌てた私は簡単なゴロだったのに、そのボールを落としてしまいました。「あーやっちゃった。」そう思っていたその時です。「樹一！昼飯のことでも考えとったんか？早くアウトにして弁当食べるぞ！」自分たちのベンチから監督の声が聞こえてきました。この声を聞いたチームメイト皆は笑顔になり、次のバッターのファーストゴロを難なく捌くことができました。「ああ良かった。」と安心したと同時に、バントを失敗した相手選手のことを心配になりました。自分と同じで、好きになって野球を始めて、たくさん練習をして、大事な試合であんなことを言われて、野球が嫌いになってしまうんじゃないのか。そんな心配をせずにはいられません。野球が上手くなるために、厳しいことを言う必要がある場面もあります。でも失敗した後に厳しく責める言葉をかけられても、次の成功に繋がるとは思いませんでした。

私も仲間がミスをしたときに「ちゃんとしろよ。」と思ったことは何度もあり、実際に口にしたこともありました。でもそれは誰のためにもならないマイナスの言葉だと気がつきました。

それからチームのキャプテンだった私は仲間がミスをして、「大丈夫、大丈夫。落ち着いていつも通りやろう。」とプラスな声をかけるようになりました。

「言葉には言魂という魂が宿る。」以前父から教わったこの言葉をふと思い出しました。インターネットで調べてみると言魂とは「言葉に宿

る神秘的な霊力。発した言葉通りの結果が現れる力。」とありました。「プロ野球選手になりたい。」そう小さい頃から言っていた私に父は教えてくれたのだと思いますが、まだ小さかった私にはあまり意味を理解することができていませんでした。

それから少し大きくなった私は将来教師になりたいと思うようになり、この春、自分の母校の小学校に職場体験に行くことになりました。初めの挨拶で、先生にこう言いました。「将来は学校の先生になりたいと思っています。」この気持ちに嘘はありませんでしたが、何を話そうかと迷って何気なく発した言葉でした。ですが、予想以上に大きな反応がありました。「頑張ってるね。応援してるよ。」「何でも聞いてね。」私の夢のために本気になって教えてくれたのです。授業の様子を見ているときにも、細かいところまで親身になって教えてくださいました。きっと私が夢を語らなければ、ここまで細かく教わる機会はなかったと思いました。

2年生の担当になった私は、児童に将来の夢を聞いてみました。「お医者さんになりたい。」「ケーキ屋さんになりたい。」きらきらとした瞳で一生懸命に教えてくれました。そこで、ふと思ったことがあります。「自分はいつからプロ野球選手になりたいと言わなくなったのだろう。」特別野球が上手ではない私は、いつの間にか自分の夢を口にすることが恥ずかしいと思うようになっていたのかもしれない。今思えば、父はもちろん少年野球の指導者の誰も「お前には無理だ。」とか「夢みたいなことを言って。」と否定する人は1人もいませんでした。

言葉の魂と書いて言魂。どんなに困難な状況でも自分を信じて夢を語れば言魂の力でいつかきっと叶うと思います。「私は将来教師になる。」言魂を信じている私は何度も言います。この夢が叶うまで何度でも言います。そして、夢を叶えた私は自分の経験としてこの話を生徒にしましょう。そして次の夢は自分の担任する生徒が将来の夢を、自信をもって語るようになることです。そんな生徒の背中をそっと押してあげられる教師に私はなります。



青少年育成島根県民会議会長賞

私の幸福論

安来市立第一中学校
3年 仙田 瑚々

「私は世界で1番可愛い」

この1年間、私は自分にそう言い聞かせてきました。テレビに出ているアイドルやモデルのように優れた容姿をしているわけではありません。周りの人からすれば、何を言っているんだと思われるかもしれません。しかし、やっぱり私は世界で1番可愛いのです。そして、私からすれば、今、私の話を聞いてくれている皆さんも世界で1番可愛い、世界で1番かっこいい、素敵な人なのです。

私はこれまで、人をばかにするような言葉をたくさん聞きました。「あの人のことが嫌い。」誰かがそう言いだすと、「わかる、わかる。」というふうにどんどん広がっていきます。私はそれが、とても怖く、それをはっきり「ダメなことだ」と言えない自分にも腹が立ちました。

誰かを悪くいうことは、楽しく感じられるときがあります。その瞬間は自分が正義のように感じます。きっとそれは、自分に自信がないからです。自分がどんなに素敵な人間かを知っていれば、誰かを下に見て安心感を覚えることも、他人からの共感に執着することもない。そう気づいたのが、約1年前のことです。それから私は自分に自信を持つことで周りの人に優しく、平等な気持ちで接するようになりました。

「私は世界で1番可愛い」——この言葉は私を生きやすくしてくれます。誰かに否定的な言葉、例えば「ブサイク」や「嫌い」などと言われても、悩んだり、気にしたりすることはありません。誰かと比べて気分が落ち込むことも全くない、とは言いきれませんが、3日もすれば忘れます。難しいことにも挑戦してみようと思えます。誰かの助けになりたいと思います。そ

してそれは、私に限った話ではありません。

内閣府が行った「日本を含めた7カ国の満13歳～29歳の若者を対象とした意識調査」によると、自分自身に満足している日本の若者の割合は、アメリカ、イギリス、ドイツなどの中で最も低く、他国の半数以下です。また、毎日の生活が憂鬱だと感じている人の割合は日本が最も高くなっています。つまり、日本と欧米諸国の自己肯定感の違いが、幸福度の差につながっているのです。

今の私たちに必要なのは「自分は素敵」と思う力だと思います。ありのままの自分を愛していく力です。自分で自分を認めることは、難しい。自分の良いところを考えようと思っても、思い浮かぶのは悪いところばかりかもしれません。まずは、口に出してみることから始めるといいのです。「世界で1番可愛い」「世界で1番格好いい」「世界で1番素敵」その言葉は、少しずつ、必ず皆さんの自信になります。

最後に、私の主張を聞いて、あまりいい気持ちではない人もいるかもしれません。しかし、大事なことは私も皆さんも世界で1番だということです。寝て、起きて、ご飯を食べて、体を動かして、勉強をして、そんなありきたりな生活を頑張っている私たちは、1人ひとり世界で1番すばらしいのです。

「今の自分に満足してしまったらこれからの成長につながらない」と思う人もいるでしょう。私は、自信を持つことで生まれる前向きな気持ちが挑戦し続ける力になると思います。

皆さんも心の中で唱えてみましょう。

「私は世界で1番可愛い」



審査委員特別賞

自分で自分を助けよう

知夫村立知夫中学校
3年 萬 翔瑛

令和2年度、全国の児童生徒の自殺者は、過去最多の479人。夏休み明けの8月、9月が最も多い。理由は、進路に関する悩み、学業不振、人間関係のもつれとさまざま。誰かに相談すればいいのと思われるかもしれない。しかし、言葉にするのは案外難しいものです。

ねえ、今悩みを抱えている人は、その思いを書いてみてよ。感情をそのまま書きなぐればいい。それだけでも気持ちがかなり楽になる。

なぜ私がこんなことを言うのか。それは私も自分の思いを「書くこと」によって救われた1人だからなのです。

「お前、足遅いから鬼ごっこに混ぜない。」

「お前、空気読めないから話に入ってくるなよ。」

私は、幼いころから周りからからかわれたり、仲間外れにされたりしていました。周りと比べて少し変わっているらしく、変人扱いされていました。何年も何年もそんなことが続くうちに私は自分を否定するようになっていきました。話を聞いてくれたり、慰めてくれたりする人もいました。でも立ち直れなかった。それが申し訳なかった。そしてまた、そんな自分が嫌になる。私は、このループから抜け出せなくなりました。ついには感情のコントロールができなくなり、爆発。周りが引くほど泣いたり、奇声を発して暴れたり、自分でも理解できない行動をするようになりました。

そんな私を助けてくれたのが「書くこと」だったのです。スクールカウンセラーに勧められて始めたのですが、効果は絶大でした。手が勝手に動いて止まらない。ふと気がつくとき書き始めてから数時間が経っていました。毎日24時間ずっと胸のあたりが重かった。あの苦しみが消

え、とても楽になりました。自分でも何がつかないか分からなくなっていたことが、ごっそりノートに書き出されていました。何回か書いていくうちにコツをつかんでいきました。出来事とそのときの思いを書く。そして、それを読み返して、そう思う理由を書いていきました。すると、絡まっていた糸がほぐれるように、ごちゃごちゃしていたものが整理されていきました。自分はこんなことで悩んでいたのか。こうすれば解決するんじゃないかと先が見えてきました。続けていくと、自分の負の思い込みから解放され、徐々に自己肯定感も高まっていきました。

「書くこと」のよさは自分1人でできることや、いつでもどこでも気兼ねなく始められること、言葉で表せない思いは絵で描いてもいいことなどがあります。

けれど、気を付けてほしいことがあります。それは、自分の中だけで結論を出してしまい、周囲の意見を聞き入れなくなってしまうことです。僕にもいてくれたように、あなたにもあなたのことを心配してくれる人がきっといます。そのことを、忘れないでください。

絶望的なときには、暗闇の中にぼつんと1人であるように思えるものです。誰1人として自分を助けてくれる人がいないと思うかもしれない。もしそうだとしても、自分がいるじゃないか。自分だけは自分の味方でいてよ。悩まない人はいない。誰でもどこかで壁にぶつかる。つまり。そこでどうするかが大事だ。ねえ。悩んでいるなら、これ、書いてみてよ。自分で自分を助けていこう。そうすれば、私たちが本当に輝ける人生が始まるから。



審査委員特別賞

これまでの夢 これからの私

益田市立横田中学校
3年 石川 美咲

「諦めるな!」「諦めたらそこで終わりだ!」
メディアに登場するヒーローたちは、そう私
たちを諭します。並外れた成功を取めた人たちは、
自らの経験から諦めないことの大切さを説
きます。けれど、果たして本当に「諦めたらそ
こで終わり」なののでしょうか。諦めないことが
推奨され、美化されている今、諦めるのは悪い
こと、許されないことだと思っている人も多い
のではないのでしょうか。

私は音楽が好きです。心躍るワルツを聴けば、
優雅な時間を楽しむことができます。物語の序
章風のBGMを聴けば、これから始まる冒険に
立ち向かう勇者になれるます。

2年ほど前のこと、そんな音楽好きな私は、
将来音楽関係の仕事に就きたいと考えていまし
た。取り分け、小学校2年生の時からピアノを
習っていた私にとって、ステージでスポットラ
イトを浴びるピアニストは憧れの的。聴衆の心
に響く演奏がしたいと、学校から帰るとすぐに
ピアノに向き合った日々。利き手ではない左手
の動きをよくしようと、慣れない左手で箸を
持ったり、歯磨きをしたり。オクターブに届か
せようと、ピアノのない場所ではいつも机に指
を押し付けて広げようとしたり……。

けれど、ふと気づくと、同年代で自分よりも
はるかに先を走っている人がいました。自分は
何に向かって進んでいるのか、私は分からなくな
ってしまいました。私よりも秀でた人はいく
らでもいる。現実は厳しい。私はピアニストに
なる夢を諦めました。

諦めた時、意外なことに肩が軽くなったよう
な感じがしました。夢を捨てた痛みや後ろめた
さはありませんでした。その時、私はそれまで、
いわば義務としてピアノを弾いていたことに気
づいたのです。そして、諦めるのは許されない
ことだと思い込み、悩んでいたそれまでの自分
に、そんなに思い悩む必要はなかったよと伝え
たくなりました。

考えてみれば、私は誰かに「諦めるな」と言
われたことはありませんでした。それなのに、
自分の中の固定観念で、諦めることは良くない
こと、許されないことと決め付け、構えてしまっ
ていたのです。

夢を追いかけることは、もちろん素晴らしい
ことです。しかし、それに囚われるあまり、自
分の大好きなものやワクワクする気持ちを見
失ってしまうこともあるのではないでしょう
か。これまでの私も、音楽を楽しむ気持ちを忘
れていました。諦めたことで、私は見失ってい
た自分に気づくことができました。

「諦める」はネガティブな意味に取られるこ
とが多いですが、本来は、「明らかにする。真
実を見きわめる。」という意味です。「諦める」
ことで、他の価値あるものや自分の居場所を再
発見することができるのです。

I P S細胞の開発でノーベル賞を受賞した、
山中伸弥さんを知っている人は多いと思いま
す。山中さんはもともと整形外科医を志してい
ましたが、諦めて、研究者の道へ進みました。
その結果として、今の山中伸弥さんが在るの
です。

また、諦めたからと言って、それまでの努力
や経験が無駄になる訳ではありません。私の場
合も、あの頃の努力のおかげでオクターブに指
が届くようになったし、弾ける曲が増え技術が
向上したからこそ、今、音楽を楽しめていると
思います。成果はすぐには見えなくても、経験
は必ず自分の糧になります。未来の自分は過去
の自分の上に築かれるのです。

私にはいつか弾いてみたい曲があります。そ
れは、リストの「ラ・カンパネラ」という曲で
す。知る人ぞ知る、あの曲です。何年かかるか
分かりませんが、この難曲を弾く自分を思い描
き、私は努力を続けます。私の新たな挑戦の始
まりです。



優 秀 賞

嫌われる覚悟

松江市立第三中学校
3年 上野 泰雅

みなさんは、「嫌われる覚悟」を持っていますか。僕が思う「嫌われる覚悟」とは、人の意見や評価を気にせず自分らしく生きるための覚悟です。自分らしく生きるためには、「嫌われてもいい」という覚悟で行動することが必要だと思います。

僕は、小学生の時に、バスケットボールのクラブチームでキャプテンをしていました。試合があった日の夜は、父が撮影したビデオを見るのが習慣になっていました。「お前は謙虚すぎる。もっと周りに指示を出せ。」「嫌われてもいいから、指示し続けろ。」試合でのプレーを見ながら、父は僕に言いました。父の話を聞きながら、僕は複雑な気持ちになりました。父の言うことは正しいという気持ちと、でも、嫌われたら嫌だという両方の気持ちになったからです。ある日の練習中、ふざけている仲間に、思い切って「ちゃんとしろ」と注意をしました。今までは見て見ないふりをしてきましたが、父の言葉を思い出したからです。僕らしくない乱暴な言葉になってしまい、言った瞬間、周りの目が気になってしまいました。でも、仲間たちはすぐふざけるのをやめて、練習に集中してくれました。正しいことであれば、厳しい言葉もみんな受け入れてくれるのだと気づきました。

中学2年生になって、僕はバスケットボール部でもキャプテンをしようと決めました。クラブチームでの経験を活かし、チームを強くするために、必要であれば、厳しい言葉も躊躇なく仲間たちにぶつけました。父の「嫌われてもいいから」という言葉通り、大きな声で指示をしたり、たまに怒ったりもしました。自分がまとめなければチームは強くないのだから、周りから「なんだあいつ」と思われてもいい、と心に決めていました。自分の思いを伝えることでチームワークが良くなる、と信じていました。でも、ある日ふと気づいてしまったのです。仲間が、僕の言うことばかりに従っていることに。みんなは、何か考えて行動しているのだろうか、色々なことを僕に任せておけばいいと思っているのではないかと。強くなっているのかもしれないけれど、これが理想のチームといえるのだろうか。僕の行動はキャプテンとして正しかったのか、わからなくなってしまいました。

そうして、中学2年の秋になり、僕たちが先輩から生徒会のバトンを受け取る時期が来ました。ある先生に「お前は、生徒会に入った方がいいぞ。」と言われました。ただ、その時の僕は、すぐに良い返事をする事ができませんでした。部活のこともあり、リーダーとして先頭

に立つことにやりがいを感じられなくなっていたからです。結局、生徒会長にも副会長にも立候補はしませんでした。しかし、生徒会執行部に仲の良い友達が入ることになり、友達がいるならと、軽い気持ちで議長という役目を引き受けることにしました。

生徒会の引継ぎの時のことです。前任の先輩から、「議長は、評議会のトップだから堂々としていた方がよいよ。だからと言って威張っていいわけではないからね。」という言葉かけられました。はっとしました。部活での仲間の姿を思い出したからです。僕だけが一生懸命で、みんなはチームのことを考えてくれていないと思っていたけれど、逆の立場から考えると、みんなは僕のことを「威張っている」と見ていたのかもしれない。

チームのトップには厳しさがが必要です。でも、周りへの優しさも持ち合わせていないといけません。「堂々とする」とは、威張ることではなく、みんなの考えを受け止め、信頼されるようになることだと気づきました。そして、父のあの言葉を思い出しました。父も、決して威張っていいという意味ではなかったはずです。僕の中で、2人の言葉がリンクした瞬間、議長として評議会をまとめ、執行部の仲間と生徒会を作り上げていく決意が固まりました。いざ、執行部のメンバーと話をしてみると、みんな本気で学校を良くしたいと思っていました。自分と考えが違う仲間もいて、はっきり主張してくれることがうれしかったです。

僕はこのことから、「嫌われる覚悟」の意味をあらためて考えました。インターネット上には、特定の人に対して批判的なコメントを書き込む「アンチ」と呼ばれる人たちがいます。標的となった人が、アンチからの攻撃的なコメントに耐え切れず、命を落としてしまうという、大きな事件もありました。人前に立つ人は、批判されることを覚悟した上で活動していると思います。それでも人前に立ち続けるのは、身を削ってでも叶えたい夢や希望を持っているからだだと思います。

僕は「嫌われる覚悟」を持つことで、自分のチームを強くすることができたし、自分の思いをまっすぐに伝えることができました。でも、自分の主張を押し通すことが目的になってはいけません。自分と違う意見に出会った時、それは新しい気づきや成長のチャンスです。言うべきことを言う、正しいと思った時は行動に移す。そして、周りに気を配ることを忘れない。そのバランスを保てるようにになりたいです。



優 秀 賞

「祖父のOKサイン」

出雲市立向陽中学校
3年 多久和 亜依

「おじいちゃん、私もOK!」

弱い自分に流されそうになった時、私はこう心の中でつぶやき、また1歩、前へと踏み出すのです。

私は今まで、誰かが亡くなった事件や訃報のニュースを見ても、気にもとめていませんでした。そんなニュースが流れている横で、母に学校での愚痴を言い、その後は夜遅くまでSNS漬けの日々でした。学校では、衝突を恐れて友達の意見に同調して過ごすことも多く、部活動では、チームをうまくまとめるキャプテンと比べ、自分はチームに貢献できているのかと悩みながらの練習。リーダー決めや授業の発表場面でも、「どうせ誰かがするだろう」と人任せ。そして、帰れば、また母に愚痴を言う……。ちょうどその頃、祖父の病気は悪化しました。

祖父は、何でも修理してくれたり、幼い私の世話をしてくれたり、とても頼もしく、私のそばに当たり前にくる存在でした。しかし、8年前に胃癌を発症し、たくさんの種類の抗がん剤で治療を施されましたが、ついに効かなくなってしまい、緩和ケア病棟に入ることになりました。緩和ケア病棟とは、病気そのものを治すことが難しくなった方が、痛みや苦しみを緩和する医療を行う場です。私は、祖父がその病棟に入ることを知り、祖父が亡くなるのは、そう遠くないことなのかもしれないと、そこで初めて意識しました。しかし、実感がわかず、悲しいとは少し違った、とても不思議な気持ちになりました。

その後、祖父との交流はビデオ通話のみとなりました。画面に映る祖父は、以前より声はか細くなっているものの、元気そうにみえました。数週間後には、もう祖父は話せない状態でした。しかし、ゆっくりと右手をあげ、ふるえる手で、OKサインを出したのです。そのサインは、とても力強く感じられました。それが、私が見た祖父の最期の姿です。数日後、祖父が病

室で書いていたメッセージが見つかりました。そこには、「孫全員の、成人姿が見たい」と書いてありました。何とか力を振り絞って書いたのでしょうか。その文字は、薄く、崩れていました。最後の最後まで、家族のことを思い、そして生きたいと強く思っていたことが伝わってきました。

私は泣きながら、祖父のOKサインを思い出していました。あの時のサインは、「自分は大丈夫だよ」と伝えたかったのか、家族を安心させようと思ったのか、それとも、いい人生だったと伝えたかったのか、今となっては分かりません。しかし、私には、その全てが込められた、力強いメッセージに思えてなりません。

祖父の死をきっかけに、誰かが亡くなったというニュースを見ても、軽く考えてはいけないうようなになりました。その1つ1つの死には、たくさんの人が悲しんで涙を流しているということを忘れてはいけなかったと思います。私たちは、いつ、だれが、どんな目にあうのか、誰にも予想のつかない日々を過ごしています。だからこそ、1日1日を、悔いの無いよう、大切に過ごしていこうと決意しました。

自分に正直に、相手と真剣に向き合うことが、後悔のない生き方につながると、私は思っています。

私は、今までやらなかったようなことも自分から進んでやるようになりました。部活動では、自分から後輩に積極的に声をかけたり、自分の意志をきちんと含んだ意見を言うようになったりしたと思います。そんな風に過ごす自分に向かって、祖父が微笑みながら、OKサインを出してくれているような気がします。

私はこれから、祖父の分まで、1日1日を悔いの無いよう、大切に生きていこうと思います。祖父に胸を張って、こう返せるように。

「おじいちゃん、私もOK!」



優 秀 賞 命の意味

雲南市立木次中学校
2年 宇都宮 十和

私には、6歳上の姉と9歳上の兄がいます。小さい頃、姉と私は仲があまり良くなく、遊んだり話したりすることも多くありませんでした。

私が9歳の時、15歳になった姉が急に大きな病院に入院することになりました。なぜ入院しなければならないのか、いつまで家に帰れないのか、幼かった私はわからないことばかりでした。そのころはまだコロナウイルス感染症もなく、お見舞いにも行けました。普段会えない分、姉と話することが徐々に私の楽しみになっていきました。しかし、会う回数が重なるにつれ、だんだん顔を合わせるのがしんどくなっていきました。姉の体が以前と比べてやせ細り、顔色も悪く、声も小さく、力がなくなっていったからです。弱っていく姉を見るのはとてもつらく、それまでと同じように話しかけることができなくなっていたのです。

そんな私でしたが、小児科の先生や看護師さんたちは違いました。「今日は暑いね。」とか、「今日もかわいい洋服を着ているね。」など、いつも自然に優しい声をかけておられました。その頃から、私は小児科の看護師という仕事に興味を持つようになりました。子どもを助けようという強い思いや、気持ちを和ませるための日々の心がけに強くひかれたからです。また、病気の子どもたちともっと関わりたいと思うようにもなりました。

コロナウイルスが広がり始めると、両親以外は見舞いに行けなくなりました。父と母が交代で病院に泊まるため、不在のことが多く、また、帰ってきた時は、いつも疲れ切った顔をしていました。姉がいないと家の中もどんよりし、みんなから笑顔が消えました。私は孤独を感じるようになり、よく泣いていました。3カ月に1度、2日間だけの一時退院がありましたが、その時は、1人暮らしの兄もすぐに帰ってきました。姉が帰ってくると、家族全員の表情が明る

くなりますが、姉は病気のために口にできない食べ物がたくさんあり、悲しい思いをしていました。

このような生活を繰り返しながら半年後、姉の退院が決まりました。とても嬉しかったことを覚えています。家族全員で生活できるようになり、週末になると一緒に出掛けました。また、姉は私の勉強を見てくれて、難しい問題があっても分かるまで教えてくれました。そんな楽しい生活が数か月間続きましたが、姉は再入院。その後も入退院を繰り返したあと、昨年11月、雲1つない晴天の空の下で、天国に旅立ちました。

姉は最後まで病気と闘い続けました。最後まで勉強を続け、大学も受験しました。苦しくても頑張って自分の未来を切り拓こうとする姉を、心から尊敬します。「あこがれの人は？」と聞かれても、それまでは「いない。」と答えていた私ですが、今ははっきりと「姉です。」と答えられます。また天国に旅立った時、こらえていた涙が止まらなかった私を見て、看護師さんが何も言わずに背中をさすってくださいました。苦しくてこらえきれなかった私の心に寄り添ってくださった看護師さんとの出会い、いつかは私もそんな看護師になりたいと思うようになりました。

このような経験をして、皆さんにも、家族や友達をいっぱい愛してほしいと思うようになりました。愛することで、その人と過ごす時間がもっと特別に感じられ、大切なものになっていくからです。そして、産んで育ててくれたご両親に「産んでくれてありがとう。」と言ってほしいと思います。当たり前のように生きていますが、実は私たちが今生きていることは奇跡的なことだからです。これからも私は、生きたくても生きることができなかった姉のことを胸に、自分の命を大切にして精一杯生きたいと思っています。



優 秀 賞

私の成長は「みんなで」から

飯南町立頓原中学校
2年 板垣 風花

「明日はゴミ拾いがあるからね。一緒に行こうや」

私は父のこの言葉に少し憂鬱な気持ちになります。

「あーめんどくさ。」

ゴミ拾い、ボランティア活動、公民館行事。これらの行事は私の自由時間を奪います。そのうえ、大人たちに交じっての会話。人づきあいが苦手な私にとって本当に苦痛な時間です。

「あーめんどくさ。」

みなさんは今まで地域の行事に積極的に参加をしていますか。私は今まで積極的に参加してきた方だとはいえません。家の用事があって参加できないこともありましたが、何か理由を探したり、おおっぴらに「面倒だから行かない」と断ったりすることも多かったです。

「地域の行事に参加したって、自分に得することは何もないじゃん。自分の自由時間が無くなるだけだし。」

そのような中、新型コロナウイルス感染症が流行し始め、地域の行事が続々と中止される事態となりました。「ウイズコロナ」と言われるようになってからも、規模を小さくしたり、時間を短縮しての開催だったりして、地域の行事に参加することが難しい状況となりました。私の住む地域でも毎年していた餅つきや、神社まで町を練り歩く「はやしこ」が中止になりました。不謹慎かもしれませんが私にとっては「ちょっとラッキー」な状況です。

週末に予定が入ることが減り、私はこの時間を自分のために存分に使おうとゲームをしたり、絵を描いたりしました。嫌な時間がなくなって楽しい時間が増える。そのことに幸せを感じつつも、次第になんだかちょっと違うよなという感情が湧いてきました。1人で楽しむこともいいけれど、みんなで何かをするってやっぱり大事なことだったんじゃないかな。「みん

なで」って大きな要素だったんじゃないかな。

確かに地域に出かけることは面倒なことです。でも参加し終えたあとの気持ちはどうだったのだろうか。改めて思い返してみました。

地域の清掃活動に参加したときは、みんなで町をきれいにしたことがうれしかったし、はやしこに参加したときは、歩き回って疲れたけれど、みんなで太鼓を叩いたり、声をそろえたりしたのが本当に楽しかった！それに参加したことでいろいろな年代の人とお話ができ、新しく学ぶことも多かったし、自分の考えを改めることもあった！そんなお話から地域の歴史を知れることもできた！終わったあとは達成感や温かい気持ちに満たされていました。

地域の行事はなぜ行われて、なぜ続けられているのでしょうか。

清掃活動は地域をきれいに保つためだし、お祭りはこれからの健康を願ったり秋の実りに感謝したりするため。でもそれだけではないと思います。始めてきました。続いてきた行事には地域の人の、地域をつなごうという思いが込められているのだと。

地域の行事があるから、地域の子どもたちはいろいろな年齢の人と交流できる、そして住んでいる地域を好きになる。そんなすてきな行事の数々には、地域のいいところや歴史を語りつぎたい、そして住んでいる人がこの地域を好きであってほしいというあたたかい思いがつまっているのではないのでしょうか。

地域の行事。同じ参加するにしても「でらんといけんけん、参加する」

でなく、

「今日はみんなで楽しもう。いろいろな人とたくさんつながってこよう」

という思いで参加すると、自分を成長させてくれるかもしれません。心の持ち方ひとつで見える世界が変わってくるような気がします。



優 秀 賞

A I と共に平和な世界へ

島根大学教育学部附属義務教育学校

7年 片岡 睦深

「OKグーグル 今日の天気は？」

毎朝私はA Iスピーカーに尋ねます。声をかければ、天気を教えてくれたり、音楽やアラームをかけてくれたりと、今ではすっかり生活に馴染んでいます。スピーカー以外にも、ロボット掃除機やエアコンの自動運転など、身近になってきたA I。将来は車の運転だって、A Iによる自動運転が当たり前になるかも知れません。この技術が進歩することで、人々の生活がより便利で、より豊かになっていくと思うと、皆さんもワクワクしませんか？私は期待で胸がいっぱいでした。

しかし、A Iを怖いと感じる出来事がおこりました。ロシアとウクライナの戦争です。ニュースを見ていて、戦争にもA Iが使われていることを知ったのです。例えばA Iを無人兵器として利用したり、A Iによって敵地を正確に攻撃したり。私のA Iに対する期待はしほみ、命を簡単に奪うとても恐ろしい技術ではないかと思うようになりました。

そんな時、写真部だった姉の本棚からある本を見つけました。「A Iとカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争」という本です。日本の戦前から戦後までに撮影された白黒写真を、A Iを使い、カラー化してまとめたものでした。この本を見てみると、白黒写真の時には少し遠くに感じていた「戦争」が、現実味をもって感じられました。

パソコンがあれば私でもA Iを使ってカラー写真が作れることを知ったので、祖父からアルバムを借りて、やってみることにしました。初めて見る祖父が子どもの時のカラー写真。それを祖父にプレゼントすると、現代の技術に驚きながら、とても喜んでくれました。

祖父は戦後、2歳の時に朝鮮から引き揚げてきました。当時の家族写真を見ながらその時の話をしてくれました。朝鮮から引き揚げの際、大勢の人がいて、母親と姉がつないでいた手が離れてしまったこと。母が泣き叫びながら大声で姉の名前を呼んでいたこと。奇跡的に船で巡り合えたこと。初めて聞く恐ろしい話ばかりで

した。

祖父は、自身の体験を語りながら、ロシアとウクライナの戦争に思いをはせたのでしょうか。「こんな時代にまだ戦争があるなんて」とつぶやきました。そして、

「むっちゃんもう中学生かあ。大きくなった。しっかり勉強するんだよ。教育は戦争しないためにあるからねえ。」

と言いました。私が、

「おじいちゃん、それ、よく言ってるけど、どういう意味？」

と尋ねると、祖父はこう教えてくれました。

「教育を受け勉強することで、意見が合わない人たちとも尊重し合う関係になるにはどうしたらよいか、考えられるようになるからだよ。」

「教育は戦争しないためにある」祖父に幼い頃から何回も聞かされていたこの言葉が、すごく心に響きました。A Iにより復元された写真によって、戦争の記憶を後世に引き継いでいくことの必要性を改めて感じました。

戦争に使われ人の命を奪うA Iがある一方で、戦争の記憶を引き継ぎ、2度と起こさないことの大切さを教えてくれるA Iもあります。重要なのは、私たち人間が、A Iをどのように使っていくか考えることだと気付きました。また、祖父と写真を見ながら話すことで、対話の大切さも改めて感じました。A Iスピーカーも受け答えはできます。しかし、対話を通じ、相手を理解しようとしたり、尊重したり、思いやりたりすることは人と人とでしかできません。

変化する世の中や進歩していく技術に受け身でいるのではなく、よりよい世界にするためにどう技術を使うべきか、積極的に考える姿勢が私たちに必要です。その上で、平和を願うだけではなく、平和を求める努力をし続けること。対話を重ね、考えて行動すること。それが、教育を受けさせてもらっている私たちのすべきことだと思います。

皆さんは、A Iが怖い技術だと感じますか？

今、私は、平和な世界に導いてくれる心強い味方のように感じています。



優 秀 賞

ぼくのスーパーヒーロー

江津市立桜江中学校

1年 升本 樹希

仮面ライダー、ウルトラマン、それともスーパーマン？「あなたにとってのヒーローは？」と聞かれたら、どう答えますか？ぼくがもしも、「ヒーローは？」と聞かれたら、まちがいなく「おじいちゃん」と答えます。

僕の祖父は、料理、畑仕事、スポーツなど何だってできます。今まで祖父ができないことを僕は見たことがありません。

祖父のすごいところ1つ目は、天才料理人であることです。

肉じゃが、コロケ、焼きそばなど、料理がとて上手です。作ってもらった料理がとておいしいので、ぼくはいつも残さず食べます。ある日、

「どうして、おじいちゃんの料理はおいしいの？」

と祖父に聞いてみました。返ってきた答えは「樹希のことが大好きだからのう。」

おいしい理由が僕だなんて、本当にうれしくなりました。思いもしない答えだったので、母に伝えました。すると、母から意外な言葉を聞きました。なんと、祖父の料理は、最初から美味しかった訳ではなかったそうです。僕たちに美味しい料理を食べてほしい、という思いから、祖父は、料理教室に通って努力していたのです。それを聞いて、嬉しさだけでなく、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

祖父のすごいところ2つ目は、天才野球選手であることです。

祖父の年は、75歳です。しかし、野球の腕前は、中学生のぼくでもかありません。ある日、ボール投げで競いましたが、簡単に負けてしまいました。祖父が昔、バレーボールの選手だったということは知っていました。でも、それだけの理由でこんなにも動けるなんて、とうてい思えません。ぼくは、聞いてみました。

「おじいちゃん、なんでそんなに強いのか？」

返ってきた答えは、

「いつまでも樹希と野球ができるように毎日体を鍛えとるんよ。」

75歳の祖父ですが、僕よりも体力があること、それに、自分のことよりも僕のために頑張ってくれていることを知り、改めて「すごいなあ」と思いました。

そして、祖父のすごいところ3つ目は、野菜

作りの天才であることです。

去年の夏休み、ぼくは祖父と一緒に、野菜作りに挑戦しました。畑仕事を見たり、手伝ったりしていると、うまくできない僕とは違い、祖父はてきぱきと動いていました。祖父に負けまいと、ぼくも頑張ったつもりですが、全く敵いません。「おじいちゃんってやっぱりすごい。」ぼくは心からそう思っていました。しばらくすると、ぼくが植えた苗に、真っ赤なトマトがなっていました。祖父は、

「樹希が頑張ったからのう。」

と、できたトマトをくれました。食べてみると美味しくて、感動しました。出来たトマトを見て嬉しかったのですが、僕の頑張りだけではないことは分かっていました。なぜなら、僕たちがおいしい野菜を食べられるように、祖父が、毎日コツコツと野菜を世話していたことを知っていたからです。

祖父は、なぜこんなに色々なことができるのか。僕は、ずっと考えていました。

そこで、ぼくが出した答え。それは、祖父は、自分のことよりも、周りの人の幸せを願っているということ。ぼくも、祖父の笑った顔を見たとき、とてもうれしい気持ちになります。テストでいい点をとったり、バドミントンで試合に勝ったりしたとき、そのうれしさよりも、祖父や両親が喜んでいるのを見たときのほうが、断然うれしいです。きっと祖父もぼくと同じように、いえそれ以上に、自分のことよりも周りの人の幸せを願うことに、喜びを感じているのだと思います。

僕たちのために、祖父はたくさんのことをやってくれます。「料理」も「野球」も「野菜作り」も。

そんな祖父は、間違いなく僕のヒーローです。祖父のように、自分の事だけでなく、周りの人の事も思いやれる人になりたいです。

そのためにぼくは、周りの人が喜ぶ顔をたくさん見られるように、今自分にできることを一生懸命にやり、たくさんのことに挑戦し、そして、心から笑いたいと思います。ぼくの幸せは、きっと祖父の幸せなのだから。

祖父がいつまでも笑顔でいられるように、いつかきっと、僕がなってみせます。おじいちゃんのヒーローに。



優 秀 賞 五百円玉

出雲市立平田中学校
2年 高橋 瑠菜

この貯金箱。この中に、絶対、使えない500円玉が5つ、入っています。私にとっては、大切に、特別な500円玉。たかが500円玉と思う人もいるかもしれませんが、私にとっては特別。押入れを開け、この貯金箱が目に入るたび、力が湧いてくるのです。

私の母は、新聞販売所の経営をしています。朝は早く、母は夜中の1時ごろに起きて、仕事を始めます。朝2時にはオートバイで配達に出発。他の配達員たちと分担し、明け方5時ごろまでに、450軒のお宅へ新聞を届けます。

だから母は、私が起きる頃には布団の中です。私は母を起こさないように、朝食をとります。でも、家を出るときには、必ず「いってきます。」と声をかけるように言われています。声をかけると、母は必ずはっとして起きあがり、「水筒、持った？ 箸は？ 名札は？ 忘れ物はない？ あっ、今日は雨が降るよ。じゃあ気をつけて、行ってらっしゃい！」と見送ってくれます。これが我が家の朝の光景です。

小さい頃は、広告の折り込み作業をよく手伝っていましたが、小学5年生の夏休みには、配達を、毎日手伝うことにしました。朝5時前に起きて、母と散歩がてら、家の近くの5軒ほどに新聞を配達します。朝が苦手な私は、休日は10時くらいまで寝ていることもあります。しかしこの年の夏休みは、早起きを心がけました。何日かたつと、次第に緊張感が薄れ、まだ眠い、面倒くさいと思うようになりましたが、「いつも途中でやめてしまうから、今度こそは続けたい」と、眠い目をこすりながら配達に出ました。

毎日配達していると、その途中で地域の方に会うこともあり、「朝早いのに頑張るとるねえ。助かるよ。ありがとうね。」と声をかけていただきました。

それまでの私は、新聞配達の仕事は朝が早いし、雨や雪、強風の時は大変だし、母さんだって天気予報を見ながら「明日は雪かあ。」などと言っているのに、なんでここまでして時間を守って配るのだろう、と思っていました。でも、地域の方から温かい言葉をかけていただいて、

なぜ母がそうするのか、少しわかった気がしました。

新聞が届くのを楽しみに待っていてくれる人がいる……。その事実が私の心を温かくしました。

帰り道、家にはあっという間についてしまいます。でも、その時に見た朝日はとてもきれいでした。今でも、ふとした瞬間に思い出します。

夏休みの最終日。母は、「はい、お給料。お疲れさま。よくやったねえ。」と5枚の500円玉を渡してくれました。それは、実際の給料と同じように計算し、1軒への配達料を500円として、5軒分。私にとって初めてのお給料は、すべて500円玉でした。私の手の中の5枚の500円玉は、ずっしりと重たかった……。

世の中には、いろいろな仕事があるけれど、それぞれに大変なことがあり、楽なものは1つもない。そして、それぞれの仕事は、他の誰かの暮らしにつながっている。手の中の500円玉は、私にそう語りかけているようでした。

人は、なぜ働くのでしょうか。「お金を稼ぐため」「家族を養うため」……私はずっとそう思っていました。お金を稼いで家族を支えることは、もちろん大事なことです。でも、それだけではない大切な何かがある。だから人は働くのではないかと思うのです。

中学生になって、自分の進路について考える機会が増えました。中学校を卒業した後、どのような進路を選ぶのかは、将来の仕事につながっています。私は、将来、自分が何の仕事に就くのか、今はまだ分かりません。やりたいと思っている仕事もいくつかあります。「将来どんな仕事をしているのかな。」そう考える度に、あのときに母と見た美しい朝焼けを思い出します。

どんな職に就いても、それは誰かと必ずつながっている。その仕事の先には誰かがいる。私は、それを知っています。だからこそ、責任をもち、相手を思って働いていきたいです。そして、自分にとっての出会いをこれから見つけていきたいと思っています。



優 秀 賞

コロナを通して見えた温かさ

奥出雲町立仁多中学校
3年 江角 颯姫

「ねえ、これ行ってみたら？」そう母に言われ、1枚のチラシを渡されました。今年度の運行始めとして出発セレモニーが開かれる木次線の「奥出雲おろち号」を地域みんなで賑やかに見送りましょうという企画でした。「いいよ、そんなの。」私はこう答え、チラシをその場に置いて部屋を出ました。小学校6年生の私は地域の集まり事に積極的ではなく、近所の人との関わりも少なかったのです。このような行事をすることに、意味はあるのか、ずっと疑問に思っていました。

そんな時、新型コロナウイルスが流行し始めました。感染防止のため、学校行事や地区の行事が全て中止となり、今まで楽しみにしてきたことが奪われました。外では、子どもの声が聞こえなくなり、近所の人同士の交流の場も消えていきました。中学校に入学してもコロナはおさまる気配もなく、そういえば、最近近所の人と話せていないなと気づき、以前のにぎやかさが早く帰ってくるといいなと思っていました。人との交流がなくなったことで、こんなにも気持ちが暗くなり、さびしいことにおどろきました。

中学3年生になった春、私の出身小学校では運動会が行われました。幼稚園、小学校、中学校の子どもが参加し、とても盛り上がる行事です。私は、役員として中学生の競技を企画し、準備を進めました。

運動会当日は感染症対策を徹底し、自分達でしっかり消毒をしたり、お互いに声をかけ合ったりしながら過ごしました。

中学生親子競技では借り人競争をしました。私はみんなの前で競技説明をしました。私が、説明する様子を喜んで見てくれる人もいました。私がとった行動で人が楽しいと感じてくれたんだなと思うと、たまらなくうれしかったです。小学校の子どもと先生、保護者も借り人として参加した「借り人競争」はとても盛り上がりました。親子競技に参加する保護者もたくさんいました。保護者同士で会話が盛り上がり、久しぶりに会った小学生と中学生とで充実した楽しい時間を過ごせたりしました。みんな

のいっぱいの笑顔と年齢の壁をこえて楽しむ姿は、コロナ前と変わらない当たり前の光景でした。私も自然と笑顔でいっぱいになりました。地域の人との交流でこんなにも温かく、うれしい気持ちになることができるんだと感じた瞬間でした。

それから日にちが経っていき、3年生の総合的な学習の時間に、奥出雲町で働く方たちのお話を聞く機会がありました。私は、教育委員会で働いている方と地域おこし協力隊で仕事づくりコーディネーターの方のお話を聞きました。職種も仕事内容も違いますが、お2人の話には共通することがありました。それは、「人が温かい」ということです。奥出雲町で働くなかで人との関わりから温かさを感じたという方、幼いころから今まで自分を温かく育ててくれた地域に恩返しをしたいという方。「温かい」と感じているのは、自分だけではないんだと思いました。お互いにそう思える関係が作れているこの町はすてきだなと気づきました。

「地域」とは、人との関係のとり方が学べ、そして自分を高めてくれるとても大切なもの。何年も住んできて顔を合わせていくなかで、どういう人なのかだんだん分かってきます。「あの人って何が好きなんだろう」とさらに相手を知りたくなります。「地域の温かさ」とは、そこに住む人と人との間にある、「信頼」と「安心感」によって生まれると思います。今まで知らないところでたくさんの人に支えてもらっていたのだと気づきました。

だから、私も地域を支えたいと思います。まだ行事は以前ほど多くはありませんが、普段から出会ったときに、以前よりも大きな声で挨拶をすることを心がけています。そして、地域付き合いを大切に、自分でも役に立てるような行事を見つけて参加することで、地域への恩返しになると考えています。私が感じた「温かさ」をつないでいき、これまで以上に地域との交流やふれあいの時間を多くして、私に大切なことを気づかせてくださった方々に感謝の気持ちを持続していきたいです。



優 秀 賞

「死」を見つめて

川本町立川本中学校
2年 森川 愛子

「明日、もし、家族の誰かが亡くなるとしたら、あなたは今日、何をしますか？」

去年の12月9日。私の母の友人が亡くなりました。その方は、前日までお元気だったのに、急に天国へ逝ってしまったのです。その方の旦那さんがこうおっしゃっていました。

「急すぎて、言葉が出ん。」

いつもそばにいた人が急にいなくなる。考えただけでつらく、私も言葉が出なくなると思います。40代のその方には、やり残したこと、これから挑戦したかったこともあったと思います。また、残されたご家族にも、たくさんの後悔があったと思います。私は、母とともに、人生で初めてのお葬式に行きました。棺にお花を入れるとき、母がご遺体を「触ってみんさい。」と言いました。私はためらいながらも、手の甲の側でほかに触れました。それは、生まれて初めての感触でした。思っていたよりずっと冷たくて驚きました。自分の身体のどこをさすっても、同じ触り心地を感じるところはありません。「人が亡くなると、こんなにも冷たくなるんだ。」「自分が死んだら、自分もこんな冷たさになるんだ。」そんなふうに考えました。旦那さん、娘さん、息子さんは、泣きながら、お母さんの身体をさすっていました。それを見た私は、もし母が亡くなったら…と考え、もらい泣きしそうになるのをずっとこらえていました。参列者の中には、関係の深い方なのか、泣き崩れる方もいらっしゃり、母も、帰りの車の中でずっと泣いていました。自分のために泣いてくれる人がいて、その方は天国で喜んでいらっしゃるだろうなと思いました。

この日から私は、人はいつ死ぬか分からないと、考えるようになりました。

「命の大切さ」は、道徳や命に関する講演会でも学び、分かっているつもりでした。「自分も、周りの大切な人も、まだ死なないだろう。生きている、というこの状況はずっと続くだろう。」となんともなく思って過ごしていました。今生きていることに、心から感謝していなかった自分

に気付きました。

それからの私は、「ちょっとしたことにも感謝の気持ちをもち、1日1日を大切に過ごしていく。」そう決めました。家族や友人、身近な人との関わり方も、少しずつ変えていきました。今日も生きている、ということに感謝し、朝から元氣な挨拶をする。相手が喜ぶこと、助かることは何かと考えて行動する。常に優しい気持ちでいる。何かしてもらったら、「ありがとう」と心を込めて伝える。

今までの私なら、もし明日身近な人が亡くなったら、たくさんの後悔が残ったことでしょう。いらいらをぶつけたり、優しく出来なかったりしたことを悔やみ、自分を責めると思います。例えば母と会えなくなったら。そう考えると、頭が真っ白になり、これからどうやっても明るく生きていけない気がします。ある朝の母とのやりとりで、「練習試合頑張てね。」の声掛けに、「ありがとう。」と答えなかったことを後悔すると思います。「死」は、当たり前の日常の中では、忘れ去られてしまうのです。とくに、相手に対してマイナスな言動をしてしまった、と思った時には、「死」を想像してみてください。相手にしてもらったうれしいこと、楽しいことを思い出してください。人は「いつ死ぬか分からない。」そのことを思い出すことができれば、自分の言葉を言い直したり、謝ったりすることもできるかもしれません。

「いつ死ぬか分からない。」

そんな縁起でもない、マイナスなことは考えたくない、と思う方もいると思います。でも、このことを少しでも心にとめて、日々生活してみると、きっと後悔の少ない生き方ができると思います。

私はこれからも、日々「人はいつ死ぬか分からない。」と心にとめ、周りの人を大切にしながら、生活していきます。

「明日、もし、家族の誰かが亡くなるとしたら、あなたは今日、何をしますか？」



優 秀 賞

たった一秒 されど一秒

大田市立第二中学校
3年 渡邊 菜々花

「人は1秒で相手を幸せにすることができます。」この言葉は私が小学生の頃、校長先生がおっしゃった言葉です。

皆さんは1秒という時間で何が出来ますか。きっと友達と遊んだり部活をしたりすることも出来ないと思います。それなのに相手を幸せになんて出来るのでしょうか。校長先生はこうおっしゃいました。「おはようと挨拶をするだけでいい。ありがとうと相手の目を見てお礼を言うだけでいい。」と。それを聞いて確かにおはようって一言だけと言われると嬉しくなる素敵な言葉だと思い驚いたのを覚えています。それから私は、日常生活で使われている言葉に耳を傾けて過ごしました。そしてあることに気付いたのです。日常生活の中には「大丈夫」や「ありがとう」のような温かな言葉もあれば、「バカ」「うるさい」のような自分が発してしまえば1秒で相手に深い傷を負わせる言葉もたくさん存在しているということです。そしてこれは、行動や態度も同じだと思います。少し感情任せになって、少し周囲に流されて発した一言でたくさんの人を傷つけてきたと思うと怖くなりました。そして、相手に傷つく言葉を発してもすぐに自覚することは簡単ではないと知りました。

もし相手にたった1秒の言葉を発し傷付けてしまったら相手の傷は1秒では癒えません。中には一生癒えることのない傷を負うことだってあります。その言葉の1つに悪口があります。悪口は声に出してしまえば嫌な思いをする人が増えるだけです。しかし振り返ると私も悪口を言っていました。自分の意見ばかり通そうとする人がいた時、私はその人のいない所で、「何で自分の意見ばかり通そうとするの。」と悪口を言っていたのです。自分はあるなにも周りの悪口を怖がっていたのに自分も同じだと気付くショックでした。また、自分が悪口を言っているという自覚がないことも怖かったです。なぜ

悪口を言ってしまうか考えました。ストレス解消のため、本人に面と向かって言えないためかもしれません。でもそれ以上に気付いたことがあります。悪口を言うのは自分には悪いところが多かったと思うための逃げとして使っていたということです。そう思った私は今までの自分を深く後悔しました。それから私は悪口ではなく温かい言葉がけを心がけるようになりました。

私は3年間テニス部に所属していました。試合でミスが続く時や思い通りに出来ない時もたくさんありました。そのたびに落ち込む私にいつもペアの人や部員の人が「大丈夫だよ。」「上手いかない時は誰にでもあるよ。」「自信をもって」など、とにかく温かくて優しい言葉をたくさん掛けてくれました。そして私を元気づけてくれました。その時私の周りには部活に限らず温かくて優しい人がたくさんいるのだと気付きました。また私は今までそんな温かくて優しい人達の支えや応援によって生きてきたのだと感ずることが出来ました。おかげで私はそれまでよりも広い視野を持つことが出来るようになったと思います。

私は先生のおっしゃった言葉と経験から自分の発した言葉のもつ重みを感じました。たった1秒されど1秒、1秒で人の心は変わります。自分の発した一言が相手を傷つけてしまう可能性があることを忘れないでください。そして、自分の発した一言で誰かの心を温かな気持ちや幸せな気持ちに出来ることをもっと忘れないでください。私は誰かを幸せにするために大きなことは出来ません。でも周りの人が私を温かい言葉や優しい言葉でたくさん幸せにしてくれたように、私も優しい言葉や温かい言葉を使って誰かの幸せを作ることなら出来ます。日々の生活の中にあふれている温かい言葉を大切にこれから過ごしていきます。

令和4年度 少年の主張島根県大会開催要項 (第51回 島根県少年弁論大会：動画審査会)

1. 趣 旨 中学生自らが社会の一員であることを自覚し、責任感に目覚め、健やかに成長することが求められている。この「少年の主張島根県大会」は、明日を担う中学生が日常生活を通じ、日頃考えたり感じたりしたことを広く発表することにより、中学生の自立心を育てる機会とするとともに、視聴する親や大人の青少年健全育成に対する深い理解・関心、協力を求めようとするものである。
2. 主 催 青少年育成島根県民会議 島根県中学校長会（主管：出雲市中学校長会）
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
3. 共 催 出雲市教育委員会
4. 後 援 島根県 島根県教育委員会 島根県警察本部 出雲市
出雲市青少年育成市民会議 島根県PTA連合会 出雲市PTA連合会
5. 開催日時 令和4年9月28日（水） 10：25～14：40
6. 開催場所 大社文化プレイスうらら館
〒699-0711 出雲市大社町杵築南1338-9（電話0853-53-6500）
7. 発 表 者 県内在住の中学生及びそれに相応する学籍又は年齢にある者（国籍は問わないが、日本語で発表できること）で、地区中学校長会長より推薦された者。（地区別の定員は別表のとおり）ただし、県大会開催地区に限り定員より1名追加して推薦することができる。（発表順は別途事務局にて抽選）
※各地区の少年の主張地区大会実施に際して、地区内に特別支援学校がある場合、地区大会事務局はその地区の特別支援学校にも地区大会の案内を送付すること。
8. 実施方法 (1)発表時間 5分程度（6分以内を厳守）とする。（400字詰原稿用紙4枚程度）
(2)発表内容 ①社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。
②家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友達との関わりなど。
③テレビや新聞などで報道されている社会のさまざまな出来事に対する意見や感想、提言など。

以上、3つの中のいずれかに該当し、心からの思いや考えたこと、感銘を受けたことなどを、中学生らしい自由でユニークな発想で、飾り気のない言葉でまとめたもの。
また、商業的な固有名詞の使用は極力避けるようにする。

(3)動画の全部または一部は報道機関、ケーブルTV等により広報されることがある。
9. 審査委員 別に定める。
10. 表 彰 審査の結果、次の区分により発表者全員に賞状及び賞品を授与する。

島根県知事賞	1名（県代表）	島根県教育委員会教育長賞	1名
島根県警察本部長賞	1名	青少年育成島根県民会議会長賞	1名
審査委員特別賞	2名	優秀賞	10名

11. 発表作品の送料等 送付にかかる費用は主催者が負担する。

12. 提出物及び提出先

各地区代表中学校長は、下記「別表」に定める提出物を提出日までに、島根県民会議事務局まで提出する。

【提出先】 青少年育成島根県民会議 〒690-8501 松江市殿町1 県庁青少年家庭課内

T E L : 0852-22-6524 F A X : 0852-22-6045

e-mail : nobinobi@shimane-youth.gr.jp

13. そ の 他

- ・県代表者の発表は中四国ブロック枠で発表原稿、動画で審査され、各ブロック代表者（2名）は、「第44回少年の主張全国大会～わたしの主張2022～」[主催：（独）国立青少年教育振興機構 令和4年11月13日（日）於：国立オリンピック記念青少年総合センター]に出場する。

別表

提出物一覧（各地区代表中学校から送付）

	提出物	〆切	提出方法	留意事項
①	発表用原稿 事前に審査委員へ送付する必要があるため	9月9日 (金)	メール 添付	手書きをPDFなどのデータで送付
②	発表者名簿【様式2】			必要事項を手書きで記入しPDFなどのデータで送付。昨年度のものと同様式を変更。必ず今年度のものを使用すること
③	承諾書【様式3】	9月16日 (金)	メール 添付	弁士本人、保護者に確認（署名自筆）の上、提出。（著作権・肖像権関係）PDFなどのデータで送付
④	発表用原稿データ（Wordデータ） （作品集作成、全国大会申込みに必要）			当日発表用に修正、校正したもの ①と語尾や表現等が変化していても可 PDF不可。原稿用紙形式で提出
⑤	顔写真データ （作品集作成、全国大会申込みに必要）			肩から頭までが入ったもの （身分証明書等に使用するもの）
⑥ ※	DVDデータ（1枚）		郵送 （当日消印 有効）	PCで再生できるか確認の上、提出
⑦	発表用原稿（本人直筆、原本） （清書したもの。原稿用紙4枚程度）			原稿用紙は市販のもの 400字詰原稿用紙A4版縦書き コピーではなく原本を提出。

※要項「13. その他」記載のとおり、中四国大会は動画による審査です。県大会終了後の撮影は、提出期限を超えますので、事前に提出をお願いします。

※動画審査会の場合、「②発表者名簿【様式2】」は「1. 学校情報」及び「2. 弁士情報」のみで記入ください。

審査委員

審査委員長	元山陰中央新報論説委員長	松本 英史 様
審査委員	島根日日新聞社論説委員	前田 幸二 様
審査委員	島根県警察本部生活安全部少年女性対策課 課長補佐	上田いずみ 様
審査委員	島根県教育庁出雲教育事務所指導主事	玉木 陽子 様
審査委員	出雲市青少年育成市民会議会長	日下 雅彦 様
審査委員	出雲市PTA連合会副会長	吉川梨重子 様
審査委員	出雲市小学校長会会長	藤原 幹夫 様

昨年度(令和3年度)受賞者

◆島根県知事賞

思い出のランドセル

安来市立伯太中学校 1年 梶 瀬 真 心

◆島根県教育委員会教育長賞

先生の指と受け容れる勇氣

益田市立横田中学校 2年 安 立 葉

◆島根県警察本部長賞

人の強さ

奥出雲町立横田中学校 3年 廣 原 由 稀

◆青少年育成島根県民会議会長賞

私とあなたで

海士町立海士中学校 1年 波 多 美莉菜

◆審査委員特別賞

「私」を生きる

浜田市立旭中学校 3年 堀 さくら

未来のために

雲南市立海潮中学校 3年 新 田 美 優

令和4年度 「少年の主張島根県大会」 地区大会概要一覧

地区名	学校数	出場枠	地区大会 開催日	地区大会 開催場所
松江	19	2	8月30日（火）	松江市立東出雲中学校
安来	5	1	8月29日（月）	安来市立第三中学校
出雲	15	3	9月5日（月）	多伎コミュニティーセンター
雲南	7	1	8月30日（火）	雲南市立加茂中学校
飯石	2	1	9月1日（木）	飯南町立赤来中学校
仁多	2	1	8月29日（月）	奥出雲町立横田中学校
浜田	9	1	9月7日（水）	浜田市立弥栄中学校
大田	6	1	9月1日（木）	大田市立第三中学校
江津	4	1	9月1日（木）	江津市総合市民センター
邑智	6	1	9月8日（木）	川本町立川本中学校
益田	9	1	8月30日（火）	益田市人権センター
鹿足	5	1	8月31日（水）	津和野町コミュニティーセンター
隠岐	7	1	9月7日（水）	西ノ島町立西ノ島中学校

* 出場枠：開催地 出雲市は1名追加

令和4年度 少年の主張全国大会 審査結果

審査結果発表日／令和4年11月13日（日）

WEB開催期間／令和4年11月1日（火）～11月30日（水）

	ブロック	評価結果	県名	テーマ	氏名	学校名
1	北海道・東北		北海道	込められた意味	金 美怜	江別市立大麻東中学校
2		審査委員会委員長賞	宮 城	私のスタートライン	浅野 友希	塩竈市立玉川中学校
3	関東・甲信越・静	国立青少年教育振興機構理事長賞	栃 木	私が育てる「結（ゆい）」	阿久津結花	大田原市立親園中学校
4			神奈川	ナイチャー、 そう言われた日から	角野 理望	平塚市立春日野中学校
5		内閣総理大臣賞	山 梨	あなたの声、心に届け	前橋 真子	北杜市立甲陵中学校
6	中部・近畿		愛 知	当たり前の日常に向かって	飯田 春佳	あま市立美和中学校
7			岐 阜	地域で支え合う	平田菜々花	各務原市立鶴沼中学校
8		審査委員会委員長賞	滋 賀	水餃子	田島 桂	米原市立米原中学校
9	中国・四国		島 根	二度の出会い	高橋ゆかり	出雲北陵中学校
10			広 島	平和な世界を…	中島 千夏	広島県立広島中学校
11	九州	文部科学大臣賞	長 崎	日本を耕す	赤川 明信	大村市立玖島中学校
12			鹿児島	「雄飛」を「勇飛」に	川上 悠来	鹿児島大学教育学部附属 中学校

※全国大会開催要綱より抜粋

表彰

全国大会出場者全員（12名）に国立青少年教育振興機構理事長より奨励賞、全国大会出場者に選考されなかった都道府県代表者全員（35名）に同理事長より努力賞を贈ります。

あなたの声、心に届け

山梨県 北杜市立甲陵中学校
3年 前橋 真子

「真子ちゃん、きょうだいいるの?」「妹と弟がいるよ。」「妹かぁ。羨ましい。」羨ましいなんて……。私は妹の存在を口に出すのをためらうことがあった。

私の妹は生まれつき音が聞こえない重度難聴だ。左耳に音を増幅させる補聴器、右耳に脳に音の信号を送る人工内耳を付けている。発音も上手ではない。私が小学生のとき「妹、障がい者なのに元気だね。」と友達に言われた。なんとも言い表せないモヤモヤが私の心に渦巻いた。障がいのある妹が明るく元気なのは普通のことではないと思い、恥ずかしさを覚えた。そしていつの間にか妹のことを口にするのも、一緒に出掛けるのも辛くなった。

この春中学校入学を控えた妹は、補聴器を新調した。私も一緒に店に行った。そこには色とりどりの補聴器が並んでいた。お店の方は、好きな色を選ぶよう言った。私は「真紀ちゃん、黒か茶色を選んだら?」と勧めた。強く勧めた。黒か茶色なら髪の毛と同調して、あまり目立たない。みんなと変わらない見た目でいられる。恥ずかしい思いをしなくてすむように、何度も言った。しかしそんな私を見て妹は言ったのだ。「誰になんと思われても、これは私の耳なの。私は黄色い補聴器の私を見てもらいたい。」妹に言われてハッとした。障がいにこだわっていたのは私自身だったのだ。

聴覚障がいのある妹が、明るく元気なのはおかしいのか。いや、妹は妹だ。妹が笑顔を絶やさないのは、今まで本当に沢山の努力をしてきたからだ。私と同じ小学校に行くために、人工内耳の手術を受け、手話が無くても友達と話せるように病院やろう学校に通って、発音練習を頑張っていた。誰にでも優しいのは、自分がされて嫌だったことや辛かったことを痛いほどに知っているからだ。私は、今まで辛くて、悔しくて泣く妹を何度も見た。でもその度に努力し

てハンディキャップを乗り越えていた。そんな妹の努力を一番近くで見て知っているのは私だ。障がい者というフィルタを通さず、ありのままの妹を見て欲しい。手話や口話、筆談、テレビの字幕も全部、社会と繋がるコミュニケーションツールの一部だ。それが妹の全てではない。

聴覚障がい者は、一度見ただけでは耳が不自由かわからず、接し方に戸惑うことがある。でも耳の不自由な人がみんな、相手に手話を望んでいるわけではない。聴覚障がい者が困っているときは、その人の正面から「何か手伝えることはありますか。」と口を大きく開け、ゆっくり話しかけてほしい。

「思いやりのある言葉は、たとえ簡単な言葉でも、ずっとずっとこだまする。」これは貧困や病に苦しむ人の救済に生涯を捧げた、マザーテレサの言葉だ。心のバリアフリーの精神を表している。まずは聞こえないことについて知ろうとしてほしい。その思いやりでどれだけ救われる人がいることだろう。

妹は毎日黄色い補聴器をつけ、お気に入りのテニスラケットを持ち元気に登校している。先日友達に「妹さん明るくて、部活のムードメーカーで、頑張っているよ。」と言われた。ありのままの妹を見てくれていると分かり心が温かくなった。そんな妹は私の誇りだ。

私たちにできることには限りがあるかもしれない。それでもあなたの身近にハンディキャップを持つ人がいたなら、そのハンディというフィルタ越しではなく、その人自身や心に寄り添ってほしい。障がいのある人への理解が進むことで、一人またひとりと笑顔が増えていくと確信している。

妹の耳に、あなたの声は聞こえないかもしれない。でも、あなたの気持ちは妹の心に確実に、届いている。

あ と が き

令和4年度「少年の主張島根県大会」の報告書をお届けします。今年度の大会は昨年引き続き動画審査会となりました。県内13地区から選抜された16人の皆さんの発表を、事前に収録した動画を視聴し、審査しました。その発表は、対面とは違い様々な制約がある中、皆さん一人ひとりの気持ちが画面を通してしっかりと伝わるってくるものでした。

発表内容は、家庭内の話や身内の死、地域との関わり、AIやSNSについてなど幅広いものでした。今、世界は新型コロナウイルスやウクライナ侵攻などの波にのみこまれています。皆さんの発表を通して、この時代に生きる皆さんの自己肯定感を、地域・家庭・学校が一丸となって育んでいくことの大切さに気付かされました。

この報告書には、県大会で発表された16作品と、全国大会で内閣総理大臣賞を受賞された作品を掲載しています。多くの皆さんに読んでいただき、発表者の思いが一人でも多くの方に伝わり、青少年育成に各分野で活かされることを願っています。

令和4年12月

令和4年度「少年の主張島根県大会」
審査委員長 松本 英史

令和4年度 少年の主張島根県大会報告書

令和4年12月発行

編集 青少年育成島根県民会議

〒690-8501 島根県松江市殿町1番地（県庁青少年家庭課内）

TEL 0852-22-6255 FAX 0852-22-6045

<https://www.shimane-youth.gr.jp/>

E-mail: nobinobi@shimane-youth.gr.jp

Facebook「青少年育成島根県民会議」



青少年育成島根県民会議
シンボルマーク